



1-1, 草むらの小鳥と少女 1971年

ちひろ いのちを見つめて

2020年3月1日(日)～5月11日(月)

平和で、豊かで、美しく、
可愛いものがほんとうに好きで、
そういうものをこわしていこうとする力に
限りない憤りを感じます。

いわさきちひろ 1972年

いのちを見つめて、あらゆる子どもの姿を描き続けた 画家・いわさきちひろ

画家・いわさきちひろは、生涯、子どもを描き続けました。残された作品のなかに、子どもが見せる一瞬の表情や、あらゆる姿態がいきいきととらえられています。ちひろは、平和な日常のなかでかがやくいのちを見つめ続け、絵を通して、その尊さを訴えかけています。ちひろ美術館では、開館以来、展覧会や書籍などを通して、繰り返し、ちひろが願った子どもの幸せと平和について伝えてきました。残念ながら、世界では今も紛争をはじめ、さまざまな暴力にさらされている子どもたちがいます。

「世界中のこどもみんなに 平和と しあわせを」。ちひろが残したこのことは、今も切実に響きます。本展では、改めてちひろが願った子どものしあわせと平和を見つめ直します。



1-2, 水仙とつくしを見る子ども 1969年代後半



1-3, チューリップのなかのあかちゃん 1971年

展覧会名	ちひろ いのちを見つめて
会期	2020年3月1日(日)～5月11日(月) ○開館時間=9:00～17:00 ○休館日=3月25日(水)、4月22日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室1・2
料金	大人900円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)は700円/65歳以上、学生の方は700円/ 障害者手帳ご提示の方、介添えの方(1名)は無料/年間パスポート 3000円
特別協賛 協賛	株式会社ジャクエツ 小野谷機工株式会社

展覧会の見どころ いのちのかがやき

ちひろが子どもの本を舞台に活躍を始めたころ、日本は高度経済成長期の只中にあり、子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化していました。人々が物質的な豊かさを求め、核家族化が進むなか、ちひろは、子どもたちの内面を見つめてその姿を描いています。

平和への願い

第二次世界大戦後、日本はめざましい復興を遂げ、日増しに戦争の記憶は遠のいていきました。一方で、1960年代以降、連日のように激化の一途をたどるベトナム戦争が報じられていました。そうしたなか、ちひろは、自身が体験した戦争やいのちの大切さを次の世代へ語りつぐことに取り組みます。本展では、ちひろが手がけた戦争をテーマにした3冊の絵本の原画を展示します。



1-4, 「ままごと」 1963年

小企画 ちひろの絵本づくり 絵本『ことりのくるひ』

絵本『ことりのくるひ』では、「ことりがほしい」という思いが芽生えた少女の心情が、説明的な要素を極力省いた絵とことばで描かれています。ちひろは、主人公の少女に自分自身を重ね、子どもころの感性をみずみずしく映し出しています。



1-5, 小鳥と少女 「ことりのくるひ」(至光社)より 1971年

出展作品数 約 60 点

主な出展作品 草むらの小鳥と少女 1971年／『わたしがちいさかったときに』(童心社)より 1967年／『母さんはおるす』(新日本出版社)より 1972年／『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年／チューリップのなかのあかちゃん 1971年／『ことりのくるひ』(至光社)より 1971年 ほか

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



1-6, 水仙のある母子像 1972年



1-7, 煙のなかの母子「戦火のなかの子どもたち」(岩崎書店)より 1973年

<企画展> 田島征三展『ふきまんぶく』 -それから、そして、今-
2020年3月1日(日)～5月11日(月)



2-1, 「ふきまんぶく」(偕成社)より 1973年 ちひろ美術館寄託

泥、水、空。地球を代弁するアーティスト田島征三

本展では、絵本『ふきまんぶく』を起点として、田島征三が描く生命の表現の軌跡を紹介します。

自然豊かだった東京都日の出村(現・日の出町)での生活体験をもとに描いたこの絵本は、大胆な構図、いきいきとした少女、泥絵の具の質感などが読者をとらえ、田島の代表作のひとつに挙げられます。本書の原画、スケッチを展示し、描かれた当時の背景も紹介します。

その20年後、田島は同地で取り組んでいたゴミ処分場建設反対運動の体験を元に『やまからにげてきた・ゴミをばいばい』を制作しました。また、2005年からは、田島らの発案で、韓国、中国、日本の絵本画家たち12名による平和絵本プロジェクトを開始。戦いで失われていった命を描いた『ぼくのこえがきこえますか』を通して、戦争の愚かさを表現しました。

現在制作中の絵本『つかまえた』(仮題)の原画や、タブロー作品から、命を描き続ける田島征三の今をご覧ください。



2-2, 「ふきまんぶく」(偕成社)より 1973年 ちひろ美術館寄託



2-3, 春の仕事 1977年 個人蔵

展覧会名	<企画展> 田島征三展『ふきまんぶく』 -それから、そして、今-
会期	2020年3月1日(日)～5月11日(月) ○開館時間=9:00～17:00 ○休館日=3月25日(水)、4月22日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室4
料金	大人900円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)は700円/ 65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳で提示の方、介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円
特別協賛	株式会社ジャクエツ
協賛	小野谷機工株式会社
協力	偕成社、童心社

展覧会の見どころ 春、命のめぶく季節。『ふきまんぶく』が顔を出す

ふきまんぶくとは、ふきのとうのこと。田島征三は自然豊かな日の出村(当時)に引越した後、土手に咲くふきを地元の人がこう呼ぶのを聞き、絵本を描こうと決めたといいます。50年近く読みつがれているこの絵本原画の力強さは圧巻です。

『ふきまんぶく』、それから...

『ふきまんぶく』発表後、田島は同じ表現に留まることなく、新しい試みを模索し続けます。そのなかで、自身が暮らす日の出村にゴミ処分場が建設されることを知り、反対運動に身を投じます。そこから生まれた絵本『やまからにげてきた・ゴミをばいばい』では、環境破壊を人間と動物、それぞれの視点でとらえ、今なお私たちに痛烈に響きます。

そして今

80歳の田島征三は、動き続けています。日本を超えて、世界へと。そんな彼の原点ともいえる、少年時代の体験をもとにした、現在制作中の絵本『つかまえた』(仮題)の原画や、初公開となる最新のタブロー作品を通して、彼の今をご覧ください。



2-4, 大地の春 1980年 個人蔵

出展作品数 約50点

作家プロフィール



田島 征三 Seizo Tashima 1940～

大阪府に生まれ、幼少年期を高知県で過ごす。1962年に手刷り絵本『しばてん』を制作。1965年に初めての絵本『ふるやのもり』を出版。1969年より日の出村で農耕生活を営み、ごみ処分場建設反対運動など次世代の命を守る闘いに関わる。1998年に伊豆半島に移住、木の実など自然の素材を用いた作品も発表する。2009年から新潟県十日町市鉢集落の廃校を「空間絵本」にし、「絵本と木の実の美術館」とした。2013年香川県大島で、ハンセン病の元患者の療養所で、入所者が暮らしていた建物を丸ごと「空間詩・青空水族館」にする。1969年『ちからたろう』でBIB金のりんご賞、1974年『ふきまんぶく』で講談社出版文化賞絵本賞等受賞多数。

主な出展作品 『ふきまんぶく』(偕成社)より 1973年/春の仕事 1977年/のらぼうにいるものたち 1979年/大地の春 1980年/『やまからにげてきた・ゴミをばいばい』(童心社)より 1993年/『ぼくのこえがきこえますか』(童心社)より 2012年/『つかまえた』(仮題、偕成社)より 2020年

関連イベント

●田島征三アーティストトーク

日時:4月12日(日) 11:00～

参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

●田島征三&ふき 親子

『ふきまんぶく』トークライブ

日時:4月12日(日) 14:00～15:30

会場:松川村 すずの音ホール

参加費:500円 定員:250名

申し込み:要事前予約(松川村図書館TEL.0261-62-0450)

●映画『絵の中のぼくの村』上映会

日時:3月15日(日) 14:00～16:00

参加費:200円(入館料別)

定員:50人

申し込み:要事前予約

●田島征三の「絵本のじかん」

日時:3月14日(土)・22日(日)・28日(土)・4月11日(土)

11:00～11:30

参加費:無料(入館料のみ) ※参加自由

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-5, 『ぼくのこえがきこえますか』(童心社)より 2012年 個人蔵



2-6, 『ぼくのこえがきこえますか』(童心社)より 2012年 個人蔵

ちひろ美術館コレクション

ねずみとはりねずみの絵本展

2020年3月1日(日)～5月11日(月)



3-1, ジョン・バーニンガム『バラライカねずみのトラブロフ』(ほるぶ出版)より 1964年



3-2, ユーリー・ノルシュテイン&フランチェスカ・ヤールブソフ『きりのなかのはりねずみ』(福音館書店)より 2000年

チューモク

2020年は、ねずみに注目!

ちひろ美術館のコレクションのなかには、ねずみとはりねずみの作品があります。「ねずみ」はどんなイメージの動物でしょうか?

ねずみの仲間は1000種類以上います。ハツカネズミやクマネズミ、モルモットやカピバラもねずみです。世界中のあらゆるところに生息し、古くから人間の近くでも暮らしてきました。食べ物を盗んだり、大事なものをかじったりする嫌われものですが、かわいらしく親しみのある動物としてペットになることも。そんな人間とのかかわりから、物語のなかでも悪者や神様の使いなど、多種多様な姿で登場します。

本展では今年の干支でもあるねずみに注目し、はりねずみも加えて画家によってさまざまに表現された絵本のなかのねずみを紹介します。

展覧会の見どころ **世界のねずみ**

ホフマンのくるみわり人形、アンデルセンのおやゆび姫、ロシア民話など、世界各地のおはなしのなかにねずみは登場します。からだ小さく俊敏な動きから想像するかわいらしい姿や、夜活動する不気味でおそろしい姿。丸い耳や長いしっぽのねずみの姿は画家の筆でどのように描かれるのでしょうか?

日本のねずみ

古事記の大国主命のおおにぬしのおおにぬしなど、日本の神話や昔話でもねずみはおなじみです。おしれやお米やおもちなど、日本のくらしに関わるおはなしに登場するねずみをご紹介します。

はりねずみ

はりねずみはヨーロッパ、アフリカ、中近東、インド、ロシアなど世界に広く生息しています。つぶらな瞳やちいさな足、身を守るために針をたてて丸くなる姿がかわいらしい人気者のはりねずみ。本展では、ヨーロッパのおはなしに登場するはりねずみをご紹介します。



3-3, エフゲーニー・ラチョフ『てぶくろ』(福音館書店)より 1950年

出展作品数	約 35 点
主な出展作品	ジョン・バーニンガム『バラライカねずみのトラブロフ』(ほるぶ出版)より 1964年/エフゲーニー・ラチョフ『てぶくろ』(福音館書店)より 1950年/ユーリー・ノルシュテイン&フランチェスカ・ヤールブソフ『きりのなかのはりねずみ』(福音館書店)より 2000年/瀬川康男『いないいないばあ』(童心社)より 1967年/茂田井武『凍て月と襟巻鼠』1947年ほか

展覧会名	ちひろ美術館コレクション ねずみとはりねずみの絵本展
会期	2020年3月1日(日)～5月11日(月) ○開館時間=9:00～17:00 ○休館日=3月25日(水)、4月22日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室3
料金	大人900円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)は700円/65歳以上、学生の方は700円/障害者手帳ご提示の方、介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円
特別協賛	株式会社ジャクエツ
協賛	小野谷機工株式会社

企画展関連企画

田島征三アーティストトーク

4月12日(日) 11:00～

田島征三が自らの作品や絵本『ふきまんぶく』制作のエピソードを語ります。
トーク終了後にはサイン会も。

参加費：無料(入館料のみ) ※参加自由

田島征三&ふき 親子

『ふきまんぶく』トークライブ

4月12日(日) 14:00～15:30

共催：松川村図書館

田島征三、大澤ふき親子による楽しいトーク。絵本『ふきまんぶく』制作のエピソードや当時の暮らし、作品への思いを語ります。大澤ふきによる沖縄民謡弾き語りライブもお楽しみください。

会場：松川村・すずの音ホール

参加費：500円

定員：250名

申し込み：要事前予約(松川村図書館TEL.0261-62-0450)

映画「絵の中のぼくの村」上映会

3月15日(日) 14:00～16:00

参加費：200円(入館料別)

定員：50名 申し込み：要事前予約

田島征三の自伝的エッセイ『絵の中のぼくの村』を原作とした映画を上映します。
田島征三、征彦、双子の兄弟の少年時代の思い出が生き生きと描かれています。
第46回ベルリン国際映画祭で銀熊賞受賞。

監督・東陽一、1996年製作。

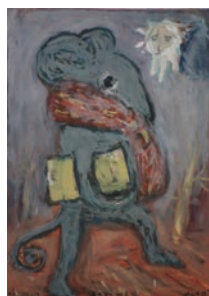
田島征三の「絵本のじかん」

3月14日(土)・22日(日)・28日(土)・4月11日(土)

11:00～11:30

絵本『ふきまんぶく』をはじめ、田島征三の絵本の読み聞かせを行います。

参加費：無料(入館料のみ) ※参加自由



3-4, 茂田井武 凍て月と猫巻鼠 1947年

ちひろ美術館コレクション展関連企画

3月限定

ちゅーちゅーねずみのドレスコード

“ねずみ”や“はりねずみ”をモチーフにしたアイテムを身につけてご来館いただいた方に、もれなくポストカード(非売品)をプレゼントいたします!

ちゅーちゅーねずみの「絵本のじかん」

4月25日(土)・5月9日(土) 11:00～11:30

“ねずみ”や“はりねずみ”が主人公の絵本の読み聞かせを行います。

参加費：無料(入館料のみ) ※参加自由

ワークショップ

「春を束ねる・ミニブーケづくり」

3月29日(日) 13:30～15:30

講師：木下いずみ(hanaizumi 主宰)

参加費：2000円(入館料別) 定員：20名

申し込み：要事前予約



ベビーカーでお出かけしよう!

ファーストミュージアムデー

4月4日(土) 10:30～11:30

ファーストミュージアムとは、生まれてはじめて訪れる美術館のこと。あかちゃん絵本の読み聞かせや美術館ガイドツアーなど、あかちゃんといっしょに美術館をゆったり楽しみましょう。

対象：0歳～2歳の子どもの保護者 参加費：無料(入館料のみ)

申し込み：要事前予約



入館無料デー

日頃の感謝を込めて、長野県及び美術館近くの市町村にお住いのみなさまをご優待します。

3月8日(日) 松川村民感謝デー

3月22日(日) 長野県民感謝デー



開館記念日

4月19日(日)

当日ご来館の先着100名に、ポストカードをプレゼント!

●絵本のじかん

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみください。

日時：毎月第2・4土曜日 11:00～11:30

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展示の見どころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14:00～ちひろ展 / 14:30～田島征三展

2020年の
開館情報

* 3月1日～12月15日(ちひろの誕生日)まで開館します。

* 休館日は第4水曜日(GW・8月は無休)となります。